

はじめに

とちお祭への裏方参画と調査・情報発信

～長岡・栃尾地域を元気にするために～

長岡大学准教授／ゼミ担当教員 今瀬 政司



今瀬政司ゼミナールでは、実社会の現場における実践的な活動や調査等のノウハウを学び、社会の中で「生きる力」の基礎を身につけ、地域（社会）の活性化に貢献することを目的に活動しています。

私は、教員がレールを敷いて、その上に学生を乗せて走らせるといった授業方法ではなく、社会をモノサシにして、学生の自発力・自主性・自律性を育み、学生が自らの生き方・働き方を創造するような教育を行いたいと考えています。2014年度の今瀬ゼミでは4月～6月に、「自治と協働による地域づくり」という大テーマのもと、ゼミ生たちが自ら取り組み内容を検討して、様々な関係機関に事前取材・相談を行い、その過程で企画案を何回も更新して、試行錯誤を重ねた上で企画書を立案しました。

そして、6月から翌2月にかけて、とちお祭の「裏方」として現場活動、調査、提言、情報発信等を行い（現場活動は30日間超）、栃尾活性化への貢献をめざしました。具体的な取り組みは以下です。

1つ目として、6月～翌1月に、とちお祭の歴史等を調査すると共に、第60回とちお祭（8月23・24日）の「裏方」スタッフと「表方」参加者としての現場活動を通じて、その実態を調査しました。

2つ目として、6月～11月に、とちお祭の各種会合等への参加と取材を行いました（結団式、仁和賀部会、全日本樽みこし綱引き選手権大会説明会、安全祈願祭、スタッフ会合、花火大会反省会、他）。

3つ目として、6月～8月に、とちお祭の現場作業と取材を行いました（提灯・のぼり設置等の事前準備、チラシ配布等の事前PR活動、会場設営等の前日準備、当日の運営、会場等の後片付け）。

4つ目として、8月に、大花火大会の現場作業と取材を行いました（花火の打上げ場所の設営準備（枯れ草清掃、テント・防火水槽設置等）、見学側の設営準備、打上げの点火合図、燃え殻回収等の片付け）。

5つ目として、8月の祭当日に、イベントの「表方」として参加と取材を行いました（「全日本樽みこし綱引き選手権大会」に出場して準優勝。「仁和賀行進」で栃尾本町区のパフォーマンスに参加）。

6つ目として、とちお祭への提言を検討し、10月以降、様々な機会で発表しました。

7つ目として、10月の長岡大学悠久祭で、とちお祭のイベント「仁和賀行進」を出前開催しました（栃尾本町区の住民の方々と今瀬ゼミで合同「仁和賀隊パフォーマンス」を披露して栃尾をPRした）。

8つ目として、10月～翌2月に、今瀬ゼミで「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」事業のパネルを作成して、長岡市内で巡回「パネル展」を開催し栃尾をPRしました（長岡大学悠久祭、長岡市栃尾産業交流センターおりなす、アオーレ長岡（市本庁舎）。3月以降も他市内各所で開催予定）。

9つ目として、11月以降、今瀬ゼミの情報発信として、今瀬政司研究室ホームページでゼミ活動報告等を随時掲載しています（<http://sicnpo.jp/imase-nagaokauniv/>）。その他、地域活性化プログラム成果発表会、「栃尾タイムス」への記事掲載など、ゼミ活動報告等を通じて栃尾をPRしました。

こうした今瀬ゼミの取り組みにおいては、アドバイザーの荒木 隆氏、安達一啓氏のほか、長岡大学ボランティア学生、長岡市役所（栃尾支所商工観光課、市民協働推進室、他）、栃尾観光協会、栃尾本町区（住民）、栃尾煙火協会、栃尾商工会、その他様々な関係機関等にご協力を頂き、協働で取り組むことで、「とちお祭」と栃尾の活性化に一定程度の貢献を果たすことができました。ゼミ生（五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太朗（3年生、五十音順））とともに、改めてここに深く感謝を申し上げます。そして、今後、長岡・栃尾地域が一層発展していくことを祈念しています。

平成27年3月